からばるイング 若者の元気は町の元気! 部活動などをがんばる 高校生や大学生を紹介します!

秋田中央高等学校3年、女子バスケットボール部所属。本年6月の全県高校総体では 全試合に先発出場し、チームを準優勝に導きました。

3点シュートを武器に チームを県大会準優勝に導く

佐藤

秋田中央高校女子バスケットボール部に所属する佐藤さん。「3点シュートを決めるのが自分の役割」と話すように、好機があれば迷いなくシュートを放つなど、強気のプレーでチームをけん引します。

佐藤さんが得意とする「3点シュート」は、通常のシュート(2点)に比べ難易度が上がる分、1本の成功で3点分の得点を上積みできることから、攻撃時の強力な武器となります。佐藤さんはこの3点シュートの精度を高めるべく、朝の授業開始前の時間を利用して自主練習に取り組み、昨年からの10か月間で3万7,000本を沈めました。また、有利な状況でシュートを打つため、全体練習時には守備側の選手

を振り切ってボールを受ける動きなどを磨きました。

そして迎えた本年6月の全県高校総体では、全試合に先発出場する中で、「うまくいかない時も弱気にならず、自分らしいプレーができた」と振り返るように、日々の積み重ねを自信に、チームを5年ぶりとなる準優勝へと導きました。

佐藤さんは当初、この夏を区切りとし、引退するかどうか迷っていたそうですが、決勝戦の相手の湯沢翔北高校に負けた悔しさや不完全燃焼感が残り、現役続行を決断。現在は、10月末の「全国高等学校バスケットボール選手権大会秋田県予選会」に向けて引き続き練習を重ね、シュート精度のさらなる向上に加え、攻撃の幅を広げようと、ドリブルで切り込むプレーや中距離の

シュート練習などに取り組みます。

佐藤さんは、「夏の総体には『どこにも負けない』という気持ちで臨んだので、準優勝という結果はとても悔しい。また、今回を含め湯沢翔北高校には3度負けているので、最後の最後で勝って高校生活を締めくくりたい」と、高校最後の大会での雪辱を誓いました。



大好きな五城目との別れ

This is my final piece of writing after a wonderful two years of living here in Gojome-machi. I am thankful to everyone living here. You have all been so kind and welcoming. I will miss Gojome-machi when I return to Australia.

五城目での楽しい2年間を終え、このコーナー も今回が最後となりました。 みなさんがいつも親 切にしてくれたこと、改めて感謝しています。 オー ストラリアに帰ったら、五城目が恋しくなります。

I loved visiting the morning market and seeing all the interesting stalls and items for sale. Gojome Bakery is amazing and I love seeing all the different food options that they have.

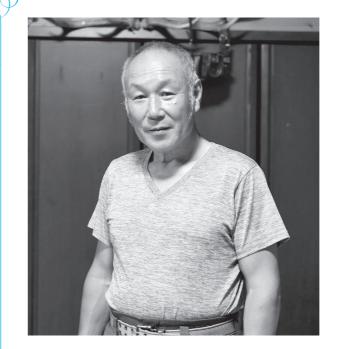
朝市通りに足を運び、面白いお店や、個性的な商品を見て歩くのがとても好きでした。中でも、パン屋さんには様々な種類のものがあって、お気に入りの場所です。

I have enjoyed the slow pace of Gojome-machi and seeing all the beautiful landscapes and features including Nekobari. Visiting Seiryunomori and trying their delicious menu made with local ingredients was a highlight. I will miss Gojome-machi and all of the people living here. I hope I will visit in the future. Take care and goodbye for now.

五城目では、ゆっくりと時間が流れ、ネコバリ 岩をはじめとする美しい風景を見ることができ、とても楽しい時間を過ごせました。また、農家レストラン「清流の森」で食べた、地元の食材を使ったおいしい料理が印象に残っています。

五城目を離れることと、みなさんとのお別れが 寂しいです。 いつの日かまた、 訪れたいと思って います。

みなさんお元気で。 またお会いしましょう!



家業の大工として働く傍ら、東汀猟友会の一員としても活動する石井さん。20歳のころに猟銃免許を取得し、射撃場に通い腕を磨く中で、当時の猟友会会員に「大会に出てみないか」と誘われたことがきっかけで、射撃の各種大会へ出場するようになります。以来、30年以上にわたって東日本や全日本規模の大会への出場を続け、その間、2度にわたり、全国3位の好成績を収めました。

数ある種目の中で石井さんが専門とするのは、「ビッグボア・ハンティングライフル伏射40発競技」で、猟銃を使いながら、300 た先にある固定された標的の中心を狙って撃ち、命中した弾丸が

石井 正春さん (67歳・町村)

どれだけ標的の中心に近いかによって、得点の高さを競います。「高齢になったこともあり、これが最後の大会」と意気込んで出場した本年5月の「第48回全日本ライフル射撃選手権大会」では、日本各地から精鋭が集う中、ここ一番の集中力とこれまで培った実力を発揮し、同種目で見事準優勝を果たしました。

輝け、

五城

目

V

ラ

フ

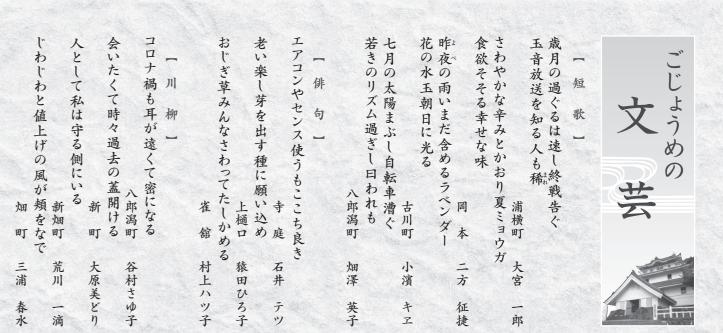
ル

射撃選手権大会で

国準優勝

に輝

石井さんは、「この歳で自己最高の成績を収められるとは考えてもいなかった。出場者から励ましの言葉をいただいたことや、長年抱き続けた『優勝』という目標もあるので、これからも頑張ってみようと思う」とお話ししていました。



07 広報「ごじょうめ」1057号 令和4年8月1日 KOHO GOJOME № 1057 2022.8.1 **06**